

## WAM 助成事業の進捗と報告会について

1月24日

WAM 助成事業もいよいよ終盤を迎え、残すところ2月と3月のみとなりました。

WAM 助成事業の報告会を3月15日に開催することになり、プログラムの内容についていろいろと検討して話し合ったことを記載します。

今回の事業報告会は、これまで実施してきた研修会とは異なり、本助成事業において「何を実施し、どのような成果が得られたのか」、そして「今後どのように次の支援へつなげていくのか」を具体的に共有する場として開催します。

特に、不登校児童生徒及びその家族が抱える悩みや困りごとに対し、訪問看護師が自宅を訪問し、伴走型の支援を行ってきた取り組みについて、実際の事例を通して成果や課題を報告することを中心に据えたプログラム構成としています。

基調講演については、県立看護大学の川村道子教授にお願いしました。川村教授は、大学において精神看護学を専門とされており、本助成事業の柱である「訪問型の伴走支援」において、訪問看護師の専門性や強みを最大限に活かした支援の在り方について、多くの示唆を与えて頂きました。

8月からは事例検討会にもご参加いただき、継続的に貴重なご意見やご助言を頂いてきました。また、11月に実施した研修会では講師としてご登壇いただき、子どもの心理面から不登校を捉える視点についてお話しいただきました。

その内容は、支援のヒントや深い気づきに富み、今後の支援の方向性を考えるうえで非常に意義深いものであったことから、今回の基調講演を改めて依頼するに至りました。

その他のプログラムとしては、WAM 助成事業の訪問支援対象である不登校・ひきこもり状態にある方やその家族を支援するにあたり、関係機関との連携を進めてきた経過についても報告します。

助成事業の説明のため、市教育委員会や各学校を直接訪問する機会を設けていただいたほか、各相談支援センターなどの専門職の方々とも意見交換を行い、宮崎における支援体制を横断的に連携させていく必要性について話し合いを重ねてきました。

こうした関係機関との連携は、今後の支援を継続・発展させていくうえで欠かせない要素であることから、今回連携することができた関係機関の皆さまにもご登壇いただき、パネルディスカッションを実施する予定としています。

- ・当事者家族・訪問看護ステーション・市教育委員会・学校関係者（校長）
- ・子供支援者・民生委員・市会議員、

他に、WAM 助成事業全体の報告や、訪問支援における具体的な事例発表など携わって頂いた訪問看護ステーションの担当スタッフに報告して頂く予定です。

なお、1月の月例の集まりでは、不登校という課題を「児童生徒や家族だけが抱える問題」として捉えるのではなく、現在の教育の在り方そのものに問いを投げかける必要があるのではないか、という意見が共有されました。こうした議論を踏まえ、代表として内容を整理し、総括としてコラムをまとめ、「宮崎もやいの会」のHPの「法人コンセプト」のページに掲載しています。

タイトルは、「不登校支援から見える教育の転換点」「不登校支援から全人的な教育への移行」です。

- ・宮崎もやいの会 <http://www.m-moyai.com/index.html>